様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成２３年度）

1. 機関番号　3 2 6 0 4

2. 研究機関名　大妻女子大学

3. 研究種目名　基盤研究(C)

4. 補助事業期間　平成２３年度～平成２６年度

5. 課題番号　2 3 5 2 0 0 5 8

6. 研究課題　近世中国におけるムスリムの「釈疑」言説の研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
7 0 4 4 7 6 7 1	サトウ　ミノル 佐藤　実	比較文化学部	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

本研究では18世紀頃から中国で著された、漢語を母語とするムスリムたちによる、非ムスリムとくに漢族からかけられた嫌疑にたいする異議申し立て「釈疑」の言説に注目し、その内容を検討・分析することで、マイノリティであるムスリムがどのようにして漢族に認められようとしたのかについて考察することを主たる研究目的としている。またこの事例研究を通じて、中国ムスリムが宣教を行わず、「釈疑」という形式をとったことの意味もあわせて考える。

具体的には金天柱『清真釈疑』、唐晋徽『清真釈疑輔輯』の言説を中心に検討し、両書の関係についても、先行するイスラーム思想漢籍や、両書を生みだした時代背景とあわせて考察する予定である。

当該年度においては、金天柱『清真釈疑』の書誌学的情報の調査をおこなったうえで、同書の序文を中心に分析・検討し、以下のことを明らかにした。まず『清真釈疑』が非ムスリムにむけてイスラームの情報を発信しようとした最初期の書であるのみならず、不敬虔なムスリムにたいしても信仰を矯正することを企図したことが判明した。また非ムスリムが同書にむけた序文からは、ムスリムたちが仏教や道教などの異教（あるいは邪教）に流されない強い心をもつことに賛辞を述べる一方で、イスラームが儒教と相違ない教えとして認識されたことが明らかになった。いったい、このイスラームが儒教と相違ない教えであるという認識はどのような点においてであるのか、その内実の究明が今後の課題となる。

また、中国イスラーム漢籍を集大成した『回族典蔵全書』を購入し、収められている上記の書籍以外のイスラーム漢籍をふくめた、ひろい視野に立っての中国イスラーム思想研究の基盤づくりの整備にとりかかった。